京城新報

●新聞料 ▲一部金二錢 ●一ヶ月金[illegible] ▲六ヶ月[illegible]
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金三十錢 ▲四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰暦 四月二十三日
發行編輯人 印刷人 秋山忠三郎
發行所 京城西署西小門通 京城新報社 電話六六三番

韓國に於ける通信事業

通信管理局長池田十三郎氏講演

一、通信事業の發達

通信事業の發達は二方面より見ることが出來る郵便電信等の數の増進する方面と一は此仕事の増加に對する設備の増設改良となり先仕事の増加したる方面より數字を以て示せば

第一、物數の増進は官民一般の仕事の進歩に伴ふものにて特に韓國に於ては日本人の移住の増加が大關係を有せり(物數)

	三十七年度	三十八年度	三十九年度	四十年度
通常郵便引受數	六百萬通	二千萬通	三千萬通	
郵便爲替振出金	四百萬圓	六百萬圓	一千萬圓	
郵便貯金年度末金高	二十萬圓	三十萬圓	八十萬圓	百萬圓
電報通數發信	廿九萬通	八十萬通	百萬通	
電話加入者	七百七十	一千六十五	二千三百六十二	三、千

以上増進の狀況は明に新殖民地的の有樣を顯はせり猶新殖民地的狀況は次ぎの郵便通信力に依りて見ることを得べし

在韓日本人の通信力一ヶ年一人に付 二百四十通余郵便
日本內地 同 同 二十六通同
世界中尤も通信力の強き北米合衆國 同 百三十五通
韓國人 同 ○通三分九厘餘

在韓日人の通信力強きは其數少なきと少なき全部が大部分活動的人物のみなるが故ならん

第二、設備の發達物數の増加は自然に設備の増加を餘儀なくするものなるのみならず新殖民地交通機關經營の方針として殖民の先驅たらんとする目的を以て出來得る限りの發達を爲さんとせり(設備)

郵便局所 爲貯、小を、欠く 合併
三十八年合同當時 韓四二〇 日七四 四九四 (四四五
三十八年七月 四四五、內電信 四四、
三十九年 四九八、內電信 四九、
四十年 四九二、內電信一 四二、

郵便線路
鐵道 三十八年合同の時 一日平均延哩 千四百四十六哩
三十九年十月十日 同 三千三百〇八哩
四十年十二月一日 同 二千六百二十七哩

遞路 三十八年 同 二千二百七十一里
三十九年 同 二千八百九十八里
四十年 同 二千九百三十九里

電信線路
三十八年七月引繼の時 五百二十里餘
三十九年三月卅一日 同 千百七十七里餘
四十年十二月一日 同 千三百十八里餘

職員及所屬員
三十九年十月一日 內韓 二千〇八十九人 九百八十四人
四十一年一月一日 內韓 三千〇廿五人 八百六十一人

(未完)

●日の丸組魚市場

香椎源太郎氏の漁場は鎭海灣方面のみにても漁船數十隻に漁夫數百人を使用して漁獲せる水揚高は年々十數萬圓の多額に上り京城仁川釜山は勿論日本內地にも輸出せるが是が販賣機關として去る明治三十八年頃より京城に日の丸組なるものを設けて盛んに營業せられしも時勢の要求は從來の規模を擴大せざるを得ざるの必要に迫り殊に其筋の注意もありて幾に資本金三萬圓にて魚市場設立の出願を成せし所一昨十八日付を以て設立認可ありたりと目下釜山馬山等各所よりの委託により販賣せる水揚高は一日七八百圓に上り居る由なれば愈々本市場落成の上は優に千圓以上に達せん豫想なりと因に同市場は京城南大門本通りに六間に七間の大建物にて目下設備中なれば近々の中に落成すべく落成の上は韓國に於ける魚市場として將た個人計營としては最も大規模完全なるものなりと

●韓海出漁船數 去月中朝鮮海水産組合本支部に於て扱ひたる韓海出漁船數及人員は左の如し

	船數	組合員	從業者
本部	二三七	一八三	一〇二八
馬山支部	一八四	一七六	四九三
木浦支部	一一九	一一七	二九六
元山支部	六	六	三五
仁川支部	四	四	一〇
群山支部	一〇一	一〇一	二〇六
鎭南浦	二	二	七
蔚山	五	四	三七

にして又巡邏船取扱郵便事務は左の如し
釜山引受は通常百四十七、書留一八、小包十一、貯金預入十三、爲替振出十一件
同配達は貯金拂渡一、爲替拂渡五
木浦引受は通常百三十二、書留一、貯金預入五、爲替振出五
同配達は通常九八、書留五、貯金拂渡五、爲替拂渡一
馬山引受は通常二十七、書留三、貯金預入二、爲替二
同配達は通常九十六

小品文

選者 翠山生

●長嘆大息 南山町 白兎生

京城日報の號外は余が坐せる書齋の窓より投げ込まれぬ惝怳手に取り見れば之れ祖國選良の當選發表なり四百に近き頭顱其の見識に於て操守に於て果た辨才に於て何れ劣らぬ花あやめならんには以て人意を強ふするに足るべきも其多くは是れ碌々斗宵の輩到底國民の選良として仰ぐべき値なし宜なり近時我が政界の日に益々墮落し腐敗し行く事や然り黃金の力爾は飽迄凡ての社界を茶毒し盡さんとするの慮ぞ

評 文辭雄渾、所論剴切、

●親友の徵兵合格を祝す 本町 綾波生

妖雲暗憺として朝鮮の獨立風前の燈火も啻ならず滿淸の山河將さに分割の不幸を見んとするは之れぞ東洋刻下の形勢にあらずや「月は沙漠を照して影烟の如く風は椰樹を鳴らして響き総の如し」とは能くも東洋衰亡の實況を寫し出だせし詩に非ずや誰か此詩に對して無量の感慨胸中に起らざるものあらんや噫、亞細亞、廣しと雖も眞個獨立の國幾何かある數へ來れば實に憐れの光景を呈して唇破れて齒に及ぶとの喩への如く我國民たるもの如何んぞ安然枕を高ふするを得んや須らく緊褌一番之れに當らざる可からず時なる哉吾が親友中の樋口の君毅然劔に仗て起ち意氣凜然冒すべからず願くば君よ愛國の二字を以て楯となし義勇奉公の四字を以て甲冑となし義旗堂々將さに亡びんとする亞細亞大陸を九地の下より九天の上へ極ひ出し以て歐米狼虎の猛勢を挫かんことを之れ我國隣邦へ對する義務否な天職なり君の盡すべき任務も亦之れに外ならず翹望す秋風颯々白馬を躍らする來る十二月の交を

評 意概は掬すべきも文章を今少しく習練すべし

選者曰く可成十行か多くて十二三行に止めて下さい

小說 新不如歸(十七)

篠原嶺葉著

麻布霞町の往來より少しばかり入込むだ閑靜な土地に、あまり廣くは無いが些と小綺麗な一搆がある。これは參謀本部の參謀官を勸める足柄平太といふ陸軍步兵少佐の宅である。

時は十月中旬過の或土曜日の午後であつた奧まつた室で相對して語らひ居るは主人の足柄少佐と、有名な御用商人猿渡勘兵衛の兩人である。

足柄少佐は長州萩の出身で、敢て敏腕家と云ふでは無いが、右も左陸軍大學の出身で云ひ、殊に參謀本部に樞要の椅子を占めて居る某少將は、同じ萩の出身で遠いながら姻戚の間柄と云ふので、其の引力に依つて陸軍部內の高等府と呼ばるゝ、參謀本部に勤務する身となつたのである。

背は五尺二寸、迚も三寸は無いであらう、軍人としては低い方であるが、其の代りデブデブと肥滿してソマトーゼの看板にでもありさうな軀である。圓顏の鼻の低い目に險のある、口の大きいながら引締つた、そして鼻の下だけに棕櫚毛のやうな髭を生して、年齡は丁度三十

猿渡勘兵衛は、何でも二十年位前までは高利貸を爲て居たと云ふ風聞であるが、現今では右も左有名な紳商で、世間では三百萬と云ふか或は五百萬位の財産はあるかも知れない、本業は陸海軍の御用商人であるが銀行、會社の重役も勤め、慈善事業などには務めて力を注いで居る。頭に半白の霜を戴き、色の白い上品な顏であるが、何となく目から眉の邊に可厭な凄味が微見ねて居る、二黑の寅で五十一である。

猿渡は卷莨を悠々と喫しながら。

「此間は關西地方に御出張なすつたと聞きましたが何時御歸京になりました。」

足柄も同じやうに卷莨を喫しながら、

「漸く一昨日歸つて來ました。」

「定めて御愉快節があつたでせう。」

「何有、全然接待係兼帶の御目附役なんだから、愉快所ぢやない、實際往生しましたよ。」

「それは飛んだ御役目でしたね、もう將軍は歸るのですか。」

「多分明後日橫濱を出發する筈です。」

「全体あれは何の目的で突然來遊したのでせう、貴方方には定めし解つてるでせうね」

「何んか目的があつて來たには相違ないのですが、どうも判然分らないのです。」

「然うですかね。」

と、云つて又卷莨を一吹喫して。

「時に足柄さん、實は此間も御不在中に伺つたですが、御不在だつたもんですから空しく歸つたやうな理ですが、一件の方は如何でせう、色々御厄介にもなつた事ですし儲けさしても貰つたんですから何時やらもお話申した通り、決して一時にとは申しません、千圓づゝ五度にでも割つてお返しが願ひたいのですが、如何なもんでせう。然ういふ都合には願はれんでせうか。」

「いや、君から然う優しく出られると、一言も申譯が無い。儲けさ[illegible]を取つた上に借たんだから、今日までもない約束通り返さんけりやならないのだ、それは私も能く知つてる。けれども濟まないが迚も一時に五千圓と云ふ金は、私の腕では難かしいから、どうか靜に甘へるやうだが五百圓か千圓宛、時々返すやうにして下さい、實は近日少し金子が入る意だから、其が入つたら千圓だけは確にお返し致します、誠に濟まないがどうぞ然ういふ都合にして、今暫く待つて下さい其中又香しい儲口があつたら早速知らせますよ。」

「なに貴方然ういふ風に極て返してさへ下さりや、強ち嚴しく申し上げる理ぢやないんですから、必ず氣を惡く思はないで置て下さい。どうぞ又旨味口でもありましたら是非御周旋を願ひます。」

「必然周旋しますよ、互の利益ですからね。はゝゝゝ。」

かくて猿渡は半時ばかり雜談に時を移して歸つたのである。

京城新報

四たび伊藤統監に與ふ

統監伊藤公爵閣下、嚮に亞細亞中興の賢君彼得大帝が即位せられて全亞細亞の統治を爲さむとするや、民情を視察するの必要を感じ輕裝して一個の旅人となり、國內を漫遊し農夫と手を握て農事を談じ、兵營の番兵と立談して兵士の要求に耳を傾く等、種々なる行動をなして下情を審にし、之に依りて施政の改革を爲したることは今に之を美談として賞揚す、苟も統治者たるものは其國情を詳にせざる可らず、國情民性を誤解して統治の方針を定めんか、失政百出終には救ふ可らざるに至らむ、之れ統治者の賢愚に依り其國の興敗ある所以なり、閣下が韓國統治の實蹟に就て考ふるに、韓の國情民性を誤解するに非ざるなきかを懸念するなり、君子は坐ながらにして天下を知ると云へるも、如何に明晰なる頭腦と雖も實情を見聞せずして判斷を下すに於ては、到底正確に適中する難し、況や君子ならざる人に於ては誤謬を免れず、凡俗にして英雄を氣取り、坐して天下を治めんとするが如き輩の國家を誤れることは政史に能く見る所なり、百聞一見に若かずとは眞に名言なる哉、

閣下の懷柔政策は國民性の誤解より來るにあらざる乎、余輩の數年研究したる所に於ては閣下の懷柔政策は全く誤謬なるを信せずんばあらず、何れの邦國と雖も其首都のみを見て其國全体を卜すべからず、閣下も知らるゝ如く、巴里の浮華輕佻を見て佛國全体斯の如くなりと斷ずるは大なる誤りなり、地方の敦厚勤勉なること尠く斗りなり、佛國の精華は地方にあり、佛國の富裕も全く茲にあり、韓國に於ても京城仁川釜山等邦人の在留せる所のみを見て、韓國全体を卜する能はざるは言はずして明なり、閣下の政策が誤謬も亦た茲に存するに非ざる乎、斯く思ふと同時に余輩は閣下に向て、韓國地方の民情を視察して國民性の研究を請求せざるを得ず、鐵道沿線のみに非ずして少くとも觀察使の所在地を巡回せらるゝを要す、然らば眞に不若百聞一見の語を明に味はるゝを得ん乎、

觀察使を首都に會同せしめて、其意見を徵し之に訓諭して地方政治の改善を謀るが如きは、余輩を以てすれば到底徒勞たるを信せずんばあらず、書記官會議以上に何等の利する所あらざるべし、斯る繁雜の勞を取らんより寧ろ此際閣下自ら地方を巡回して實況を視察せば、百千の觀察使を會同せしむるに勝るや明なり、閣下果して其頭ありや、老齡の御身或は懶く思はるゝならむ、余輩亦是を强るの情なきを知る、然れども之れ私情なり、統監たる重任を負ふ閣下に對しては斯る女々しき事を言ふ可らず、閣下既に長白山頭埋骨の覺悟あり、韓國統治の爲には其の勞を避けざるべしと信ず、非乎、

東京電報

▲奇怪の噂

今回の總選擧に對し前內閣の反對候補者中運動費の補助を受けたるもの二十名ありとの說あり

▲後藤男爵の野心

後藤男爵は目下井上山本寺內の諸子を遊說せしめ現內閣の顚覆を目論見居れるが近時の財政問題につき內閣の風雲急なりとの說も後藤側より傳へられたるものなりと（以上二十二日發）

各地電報

▲宇佐川中將來韓

陸軍省軍務局長宇佐川中將は暴徒鎮壓に對する陸軍省の意見を齎らし三週間の豫定を以て統監府及び駐韓軍司令部に凝議の爲め近々渡韓する筈なり

▲我兵耶蘇教徒と衝突す

本日午後三時頃義州守備兵と耶蘇教學校生徒と衝突し學校を破壞したりとの風說あり事實の有無取調の爲め警部を出張せしめたり（二十一日義州發）

雜報

●京城より（大朝轉載）

過去一年間に或は減兵し或は增員し或は警察制度とし或は憲兵主義として軍隊本位に立戻れる對暴徒政策が、此の度の增兵討伐に依りて如何程の成績を擧ぐべきか當局者も命令三途に出でし舊弊を革め本氣に取かゝると云へば何卒十分の効能あらせたく、術思はしく行かじとすれば逃げ出すより外致し方なきに至るべく、獨り統監府並に韓國政府の面目に關するばかりに非ざる儀として一般在留邦人は固より、韓國の顯官縉紳と雖も實は時と場合に依り一種の暴徒たることを了解する識者は殊に誠實に我日本帝國の威信にかけて其の成功を祈り居申候、全體此の程まで絕對に警察論者たりし伊藤公が軍隊增派を承諾し討伐權を軍司令官に一任するに至れる動機の經路は詳かならざれども、近來公が日本の內閣に對しても、在韓の部下に對しても、宋秉畯に對しても頗る機嫌宜しからず、歸任早々またも歸朝するに見て甚だ意に滿たざる事あるを窺ふべく、始終立憲政治家を以て自任する公が近頃往々異常の態度を示すに就て偶深き心痛を諒察するに足ると存じ候、勿論韓國の事たる甚だ難澁にて稀有の政治家も或は再び三たび方針の變更は可試候へ共、公が今尙太皇帝陛下を戴く元老會を組織して政治上の一助となさん意思ありしといふ如きは餘り綽々たる餘裕ありとも見ゆれ、又萬般の舊慣俗習を顧みず一躍法治國の體に改造せしため間々豫想外の不便を生じ統治上に及ぼす影響多きに拘らず、幾多後務の庶僚は政府の施設地方の實情に適合せざる事ありと公言し乍ら、之が改善に就て忠實なる獻策せしを聞かざるは抱負なきに因るか、將進退を賭して死諫するの勇なきか、孰れにしても甚だ不眞面目の事にて不如意の境遇に在る公僕が進諫の士を有せざるは不幸と存じ候、さるにても唯一の忠告者たる言論界を以て由々しき治安の妨害者となし、他山の石として反省する雅量なく、本國に對してさへ豫防線を張るものあるに至りては沙汰の限りにて、洵に能く韓國民を直に文明の民たらしめんとならば宜しく凡百の新令を雨下すると共に、總ての兩班を除籍し所在の孔子廟を毀ち、更始一新の要は善惡共に一先づ古物を全滅する次あり底の烈々たる毅魄なくんば、畢竟捗々しからざるべしといふ者も有之候敬具

●韓皇后の教育徽旨

皇后が昨日下賜せられたる女子教育に關する徽旨の全文は左の如し

予惟ふに列聖朝文教を崇奬せられ士は百行を修め女は三德を尙び國治まり家和したるに世級日に降り實學漸く微にして國家文明をして終に世界の後たらしむ甚慨歎する所なり光武維新以來此を軫念せられ新學を興し今皇上登極の後其緒を紹き實地に施し給ひ學校蔚興し子弟奮勵し實に國家の爲めに慶事とする所なり然れども男子に止る而已にして女子敎育に至ては尙此施爲なし豈に缺典にあらずや凡そ普通敎育は男女の別なし女子は嫁しては夫を翼け家を理め母となつては子女を扶育するの責任を負ひ恒常家庭の中心となり一家の幸福を增進し此を推して國運を裨補するも亦大なるべし國家として豈に女子敎育を重要と認めざらんや予は親しく師を延き敎を受け一般女子をして予を標準たらしむるを期せしが今政府に於て高等女學校を漢城に創設したるは寔に予の意を獲たり其の父兄たる者は宜しく予意を體し其の女兒をして舊俗を株守せしむるなく學校に入れ敎育を受けしむべし此獨り一己の爲たるのみならず實に聖旨に仰副するものなり勗哉

隆熙二年五月二十日

●皇后の徽旨に就て

皇后は昨廿一日秘苑內に開催されたる京城內官私立學校生徒運動會に臨ませられたる際女子敎育獎勵に關する令旨を下されたる事は別項記載の如くなるが此の令旨は皇后が運動會場にて下賜せられんがため其の前夜親しく御執筆降書せられしものにして學部に於ては其の正本を新設の官立女學校に保存せしめ其の謄本を一般私立女學校に頒與する筈なりと云ふ

●工業練習所製品御覽

廿一日秘苑運動會の際皇帝に工業練習所製作に係る土器磁器銀製飾物彫刻物西洋箪笥製作物等數十種を御覽に供し猶附隨せる韓國の地圖に其材料製產地を畫きたる全圖を農商工部大臣より詳細に御說明申上げたるに皇帝は非常に御滿足に思召されたり

●秘苑運動會の景況

旣報の如く京城內官私立學校選拔生の運動會は一昨廿一日昌德宮秘苑內の廣場にて開催御覽に供したるが生徒は豫定人員に限か〔?〕に女學生二十名を加へ總員四百四十名（內女生徒百二十名）職員七十名運動會役員四十名に引率せられ午前九時半入門し皇帝は午前十一時皇后と共に各大臣宮內大臣女官及び當日謁見仰付けられたる荒井次官以下各財務監督局長を隨へ御入場あり春塘臺に入らせられて武官學校生徒の器械体操を御覽あらせられ次に普通學校其の他の學生の運動場に充てられたる廣場の西に設けられし天幕の玉座に入御せられ皇后は別項記載の女子敎育に關する令旨を賜ひ夫れより豫定の競技運動を行はせられ休憩時となるや皇帝は各學校長及び宮內官吏に旗取競走を試みよとの御諚あり老若の職員官吏立ち交りて三回の競爭をなし職員生徒陪觀者一同へ茶菓を賜ひ午後引續き豫定の運動競技を終りたるは午後六時なりき皇帝は此の時『朕が本日汝等學生の運動會を觀たるは教育獎勵のためなり本日の運動會は朕の滿足する所なり今後尙奮勵學事に努めよ』との御諚を賜はり生徒一同は陛下の萬歲を唱へて退散したるが皇帝は全生徒の退散し終る迄玉座に立ちて見送り賜ひ餘程御滿足の体なりきと云ふ

●日語通譯特別手當支給

二十日左の通り詔勅頒布ありたり

日語通譯特別手當支給の件

第一條　判任官及巡査看守女監取締にして日語通譯を兼ぬる者は詮衡を經て別表に依り月手當を支給することを得

前項詮衡に關する規定は閣令を以て此を定む

第二條　手當は俸給と同時に此を支給す

第三條　手當を支給するは通譯の事務兼掌を命じたる翌日より始まり非職廢官退官轉官死亡又は兼掌を解きたるか私事の故障に因り一箇月缺勤せる時は手當を支給せず

第四條　本令は日本人にして判任又は巡査看守女監取締となり韓語通譯の事を兼掌せる者にも此を適用す

附則

本令は頒布の日より施行す

別表

	一級	二級	三級	四級
判任文官	十圓	八圓	六圓	四圓
巡查看守女監取締	七圓	五圓	三圓	二圓

●暴徒討伐情報（軍司令部着）

△十四十五日の兩夜警德郡井竹里に賊徒來襲し面長里長を脅かし軍資として各里より金二十圓宛を調達すべきを命じ十七日を約し立去りたるを以て警德巡査駐在所巡査四名は同地に出張十七日夜里中に潜む二名を逮捕す又十九日巡査三名は賊徒偵察の爲め附近進行中四名の賊に衝突し首魁朴順寶外一名を殪す鹵獲品は銃四火藥五十目彈丸二十發なり

△江原道平海守備隊の兵卒四名は五月十五日蔚珍西方五里の地に於て數十名の賊に遭遇し之を潰亂せしめ其十四を殪す

△忠淸北道陰城守備隊の下士以下六名は五月十　日陰城西北方資貴院に於て賊二名を捕ふ

△江原道江陵守備中隊長の率ゆる討伐隊は五月十五日襄陽の南方約六里に於て賊六名を殪す

△慶尙北道星州守備隊長已下討伐隊は五月十五日知孔西方茂豐場附近に於て賊の步哨の如きもの二名を殪し更に茂豐場北方千米の地に於て五月十六日約卅の賊を急襲し其賊魁巳下十六名を殪し一名を捕ふ鹵獲品小銃十四其他軍刀彈丸印判書類若干

△全州守備騎兵中隊より出したる下士已下十は泰仁の東三里の地に於て約十六の賊を討ち十一を殪す

△貴島步兵中尉の率ゆる討伐隊は五月十日寧邊郡社倉に於て約二百七十の賊と衝突之を潰走せしめ賊五名を殪し火藥其他若干鹵獲す

△慶尙北道盈德憲兵分遣所の憲兵は五月十二日烈德の西南約五里半の地に於て十餘名の賊と衝突して之を擊退し十を殪す

△忠淸南道洪州警察分署長よりの報に依れば同分署より出したる巡查六名は五月十五日洪州郡內に於て約十二名の賊を討ち之を潰亂せしむ賊の損害は少なからず

△光州守備隊に附屬せる韓國第二巡查隊は五月十九日寶城郡內に於て員數不明の賊を討ち其廿五を殪し二名を捕ふ小銃二十八を鹵獲す

△龍山警察分署より出したる巡查數名は五月十六日京城西北方約八里の交河附近に於て賊一名を殪し更に其對岸城安西方の地に於て員數不明の賊を討ち二名を殪したり

●サツリ文句（其の二）

△ブラジルの市民は革命を道樂とし、漢城の市民は政權を娛樂とす、火事は江戸の花也、風說は京城の花也。

△亡國の山河はあれども愛國者の石碑は破れたり。

△統監旗は海外政治の元祖にして伊藤公は關白豐臣氏より偉大なりとぞ。

△金持は馬鹿息子の破產を信せず、兩班は賣國者の外交を傾聽す。

●海州附近の衝突

黃海道方面行動中なる鈴木憲兵中尉の枝隊より出せる江上等兵以下六名は五月十三日午後五時頃海州郡錄述面首洞に於て首魁李景七部下李成植を逮捕し其民家に隱匿せる火繩銃一火藥入一火藥若干其他被服數點を押收し亦同隊より出せる尾本上等兵以下六名の一隊は同日午後四時頃海州郡加茄面龍頭村附近に於て同じく首魁李景七の部下簡義燮を捕獲し同人の言に依り洋銃一帶革藥莢一其他雜品數點を押收し尙同日午後六時三十分海州郡安岸洞にて二隊合同し搜索の結果同郡加茄面七里岩村の西南方高地に於て賊徒四名と出會し其二を殪し火繩銃二火藥入四個火藥若干其他雜品數點を鹵獲す

●豐川附近の狀況

黃海道豐川郡は邑內上里下里遊山栗里泉洞雲山眞等仁闍面の九面及椒島及席島の二島を以て一部をなし內二面を除くの外概して不穩なるも遊山面山栗里の二面は長淵郡新化面に接し居りて晝夜の別なく十乃至十五名の賊徒出沒し良民を脅迫し金錢物品を掠奪し之が爲め良民は頗る恐怖し安んじて業務に從事するを得ざるを以て憲兵三四名は時々際々巡察し居るも區域廣大且距離遠きが爲め充分なる警戒を爲す能はずと而して郡の沿岸は解氷後頻りに淸國密輸船密航するあるが爲め之が警戒を怠らず尙郡中には二島を除くの外自衛團組織ありと賊徒襲來の時は迅速に報告し來るを以て應急の利あり且松禾邑には從來郵便取扱所の設置ありしに五月一日より長淵郡邑に移轉せるを以て官民共通信の不便を感じつゝあり又此地は概して物資缺乏して五日目每に一回づゝ開市あるも米穀の如きは賣買の取引あるも野菜の類に至りては甚だ乏しく木炭は高價にして日韓官民共に困難を釀りつゝあり又日本商人一軒ありて雜貨商を營み居り比較的家計豐なり韓人は中流以下の者多く漸く糊口を凌ぎ居るものゝ如くなるが故隨て人心は良好ならず目下住民は大豆播蒔に從事し居れりと

●仁川避病院の改善

仁川民團に於ては現在の仁川病院分院（避病院）を韓國に於ける模範的避病院となすべく着々改善中なるが過般敦賀港へ注文せし乾燥裝置蒸滊消毒機罐其他の器械は愈々近日內に到着する筈なり

●法部の移轉期

法部が平理院として新築せられたる鐘路の新廳舍に移轉すべき事は旣報の如くなるが愈々今廿三日（土曜日）午後より明日に亘りて移轉すと云ふ

●鐵道靑年會演藝會

一昨夜本町座に於て初日開演入場者は石塚長官、松井局長、趙法相は光岡夫人を從へて來會其他紳士淑女三百六七十名軍樂隊のタンノゼール演奏により開演大審院長渡邊暢氏の開會辭は基督靑年會の性質より說て韓國鐵道靑年會の起る所以を明かにし次に軍樂隊の演奏業々齋柏葉の講談、クレッダ氏の獨吟、某西洋人のニーグロダンスは滑稽滿座を笑殺せり眞龍齋貞水の愛國心千人針神崎與五郎の講談何れも神に入り滿堂を靜聽せしめたり當夜は時間の都合上活動寫眞を除きたるも今夜より同寫眞を映して觀覽に供する由なり

●新任裁判所職員數

新設裁判所職員は日韓人を選任せらるゝものにして既に任命せられたるもの日人大審院法官二名控訴院六名地方裁判所十六名部長五名書記二十名にして尙本年度に於て任命せらるべき日人は法官八十名書記八十名通譯十名韓人は法官六十名書記百名通譯約五十名にて何れも目下人選中なりと云ふ

●新設監獄署職員

本年度に新設せらるゝ監獄署職員中典獄八名看守長廿五名は既に日本人を以て任命せられたるが尙韓人看守長三十名及び看守二百名は日韓人各半數の割合に任命せらるゝ筈にて目下人選中なり

●倉富次官の監獄巡視

倉富法部次官は昨廿一日京城監獄署を巡視せり

●法官典獄の着任期

過日任命せられたる地方裁判所長同檢事長十六名は何れも來月十日迄に着任する筈にて十一日より事務打合の會議を催さるべしと聞く尙典獄八名は來月五日頃着任する豫定なり

●近事片々

▲旱天● 井水涸れ水田乾燥し韓民全体苦むも昨日の降雨は僅に黃金の價値あり喜ぶべし

▲韓國● 農產の豐凶は降雨の如何に依り定る降雨は寧ろ多きを以て豐となす今夏如何

▲大阪● 朝日の暴徒討伐論は大に振ふ二人の伊藤統監より一人の長谷川大將を可とす

▲統監● 政治は形式に過ぎ遠慮に過ぎ思ひ遣に過ぎ爲に韓民の侮りを受くとは痛快也

▲片々● の警告せる如く教育の如き大に注意すべきもの其法を誤れば他日の暴徒也と

▲韓國● 統治は伊公の私事に非ず小吏の韓化耳ならず伊公韓化せば將來知るべき耳と

▲最後● に曰く吾人は一個の伊藤公を惜まず一國の對韓政策を憂ふるのみと喝破せり

▲伊公● 統監辭任の噂亦始まる風說の本元は東京らしい時日は早晚黑白を明にすべし

▲西園● 寺內閣の跡を襲ふて伊藤內閣組織するさも云ふ今一度總理たるも面白からむ

▲東宮● 殿下に供奉し歐米に行くの說韓國に遊で極東平和の爲に盡すと何れも疑はし

▲歸東● の近きは眞なるが如し偖歸東の上何をするか疑問也燈臺基暗し更に分らぬ

▲西園● 寺內閣維持の相談丈けは何人も想像する所公自身の內閣組織は到底六ツかし

▲韓國● 統治には何人も兒玉と後藤の如き人物を欲す伊公に後藤の如き人物無は可惜

▲假り● に後藤の如き豪傑ありとせば伊公能く兒玉の如く一任するの雅量あるべきか

▲伊公● にして兒玉の如き雅量あり鶴原君にして後藤の如き辣腕あらば最も妙ならむ

▲大坂● 每日記者奧村氏米國に於て大統領ルー氏に面す懇懃に接見して語る快活談熱也

▲偉大● なる人物は何人にも接して厭はず之れ胸中光風霽月ある所以か襟度喜ぶべし

▲林董● 翁露國大使となり本野露大使外相たるべし英國新聞報ずと眞ならば甚だ面白し

▲本野● 氏の外相は或は適任たるべし氏の外交手腕は中々見上げたもの侮るべからず

▲大相● 撲五月場所二十日より始まる常陸山の洋行は力量に影響なきか甚だ危むべし

▲梅ヶ● 常陸今年は五分ならむ昨年迄は四分六なりしも常陸の洋行は相場を下げたり

▲五月● 場所の見物は錦洋と大刀山の取組なり駒と國見は駒に强味あり是亦好取組也

▲東方● の怪物玉椿は前頭の二枚目に落つ併し此力士油斷ならず今場所の成績や如何

●高瀨副理事官出發　監獄事務視察の爲め東京外三四の府縣へ向け昨日出發せり

●趙羲淵の訪問　趙羲淵氏は廿二日午前十一時頃統監府を訪問せり

●大橋囑託の出張　大橋統監府囑託は明二十四日開催の愛國婦人會鎮南浦委員部總會及二十八日開催赤十字社及愛國婦人會兩委員部聯合總會に出席の爲め廿三日出發來三十日頃歸京する由

●韓官辭令　二十一日左の通り免任譴責ありたり

陸軍武官學校陸軍步兵正領　盧伯麟

依願免本官

掌禮院掌典官　金教益

健元陵親祭時赴不侍令處以譴責事

警部　渡邊春夫

同　橋本秀平

●任警視叙奏任官四等

●實業同志組合役員會　仁川實業同志會にては不日會員募集業務の擴張、規約の勵行方法等に就き凝議すべく近日役員會を開く筈なり

公人私人

△尾西象太郎（新聞記者）　不知火旅館へ

△戸谷孝照（長野縣醫師）　九州旅館へ

△島村賀潤（高野山巴陵院住職）　海野屋旅館へ

△小林智（憲兵中尉）　山本旅館へ

△內藤三守（工兵大尉）　同上

●高瀨副理事官出發　監獄事務視察の爲め東京外三四の府縣へ向け昨日出發せり

●趙義淵の訪問　趙義淵氏は廿二日午前十一時頃統監府を訪問せり

●大橋囑托の出張　大橋統監府囑托は明

●商品陳列館

△商品陳列館と云ふもの京城に二ヶ所あり一は銅峴の農商工部附屬のもの一は鐘路の商業會議所附屬の夫れとである、農商工部附屬の者は元と博覽會第四號館の殘品を陳列したので建物も當時の一棟を夫れに充てゝある

△銅峴の陳列館には陳列點數三千點以上もありと云へど人形やら剝製の標本やら礦石やら其の大部分を占めて寧ろ教育參考品と云ひ度い位い、而かも內地の小學校などでは今少し多くの參考品を持つて居る者がある

△鐘路の商品陳列館と云はんよりも勸商場的に出來て居る、入場料を徵して陳列の商品は直ちに入場者の希望に依りて賣ることを主眼にして居る

△双方共に標本購入などは遣つて居らぬ、未だ其處迄に進步する時日が無いからでもあらうが夫れ迄する程韓人の商工業に對する智識が乏しい、これは鐘路の陳列館見た樣に寧ろ廉價にして便利な物品を最も安全に購はする樣にする法が韓人の爲めにも出品者の爲めにも得である、陳列したる商品を參考に供するなどは未だ〱韓人には早い

△一体商品陳列館といふものは內外諸國の商品を採集陳列して當業者の參考に供し併せて取引開始の照會に答ね新製品を紹介する等商品の販路擴張には出來得る限り便宜を與ゆべき性質の者である事は爰に云ふまでも無い事だ

△我國などでは農商務省附屬の者と大阪の商業會議所附屬の者とが其の最も尤なる者であるが此等は絕ず諸方と文書を往復して照會紹介の勞を取つて居る商工業家も亦時々陳列館を見舞ふて新たなる製品新たなる商品に就いて研究もし參考ともして居る

△韓國に直ちに歐米各國や日本內地同樣の陳列館を望むは甚だ誤りである之れは寧ろ鐘路の陳列館見た樣に販賣七分參考三分にすることの或は優りて居るかも知れない

△農商工部の陳列館には毎日一千名以上の觀覽者がある相だが其の大部分否な殆んど全部は例の閑潰しに物珍らしげに見物する韓人のみであるとの事だ

△韓國に於ける商品陳列館に對しては獨り韓人のみに任せずに日本の商人は自ら進んで自家の商品を紹介するがよろしい(二記者)

●鐵道新年會の演藝會を見聞す　一昨夜閑を得て本町座に演藝會を覗く、記者の行きたるときは秦々齊柏葉の孝子鐵五郎の講演半ばなりき、流石は東京下りの講談師丈否の快辯諧謔を交へて聽者を笑せつゝ親孝行の德を語りて感せしむ、尺八は門外漢にて更に解らず、ミスターグレッグの蘇國の古歌幸なき家四節は韓調形容ともに巧にして能く悲喜の感を抱かしむ、兵部將貞水氏の愛國心千人針は日露戰爭に於て親一人子一人の出征談老母が愛兒の爲に千人の婦人に一針づゝ縫ふたる布を肌に着てれば砲彈を受けずとの迷信により、寢食を廢して奔走し、新橋停車場に於て大山兒玉の大將等を送る雜踏の中に入り、圖らず閑院宮妃殿下に接し一針を賜る條りは、頗に情迫り落淚を禁ずる能はざりき、飛入りの某洋人の米國インデアンの舞踏は大に振ひ衆人をして抱腹せしむ、其顔や手を黑布もて掩ひ眞に黑人たる如くして、尻を振りて跳ね廻る樣子はニーグロの踊りは斯るものかと肯かしめたり、其次に顯れたる手品師の失敗は失笑の外なしされど素人としてのやり損ひ止むを得ざるとでも云ふべきか記者は之にて席場を出たれば他を知によしなし觀客の中には尤も目立ちしは法部大臣趙重應氏が光岡夫人を伴ふて場々と入來り、何事か喃々としつゝ見聞せることとなりき、茲に見聞の儘を記し置く

●愛國婦人會　二十四日開催の愛國婦人會鎭南浦委員部總會及二十八日開催赤十字社及愛國婦人會兩委員部聯合總會に出席の爲め廿三日出發來三十日頃歸京する由

●韓官辭令　二十一日左の通り免任譴責ありたり

陸軍武官學校陸軍步兵正領　盧伯麟
依願免本官
健元陵親祭時赴不待令處以譴責事　掌禮院掌禮　金世鎰
警部　渡邊泰夫
同　橋本秀丞

●仁川放火犯人就縛　近來仁川各所に出火頻々として特に花房町山手町等の大火を出し孰れも原因放火の形跡あるものから左なきだに昨年の大火に罹りし仁川市民は孰れも恟々として殆んど枕を高うして眠る能はざりしが遂に仁川警察の嚴重なる探索に依りて該放火犯人を逮捕するに至れり該犯人は原籍岡山縣久米郡大井野村字坪井生れ大工職上田重吉(四十)と云へるものにて其の自白したる處に依れば

四月十三日午後十二時韓人家屋外部軒先點火直に消止む▲四月十四日午前一時より二時韓人家屋軒先に點火直に消止む▲四月八日午後八時韓人軒先に點火直に消止む▲四月二十八日午後七時韓人家屋軒先に點火直に消止む▲四月廿四日午前八時稻田藤彦所有家屋外一ヶ所に松葉を以て放火したるも直に消止む▲四月二十八日午後四時木村清太郎所有家屋(空家)の廂軒に放火直に消止む▲四月二十五日午後十二時世昌洋行長屋物置に放火一棟燒失損害六千圓▲五月六日午後二時世昌洋行所有長屋(鹿兒島屋旅館跡空屋)に放火同社所有の長屋四棟燒失損害二萬五千圓▲五月九日午後三時世昌洋行所有長屋(空屋)二階床一間に立掛けある袍に放火直に消止む▲五月十五日午後五時韓人家屋軒先に放火直に消止む同午後十二時韓人家屋軒先に放火直に消止む▲五月十七日午後九時四十分商船會社所有社宅石油倉場より放火二棟六戸燒失す損害六千圓

數度放火したりと云ふ而して何の目的にて斯かる大膽なる罪惡を敢てしたるかは目下疑問中なるが多分彼れは精神に異狀ある者ならんと云ふ尚如何して彼れを捕縛するに至りしかと謂ふに仁川警察署詰小野警部の豫て同居せしめつゝありし繁田某なるものゝ豫て小野警部の命に依り各方面に就き犯人內偵中なりしに恰も去る十八日即ち商船會社々宅燒失の日山手町に於て土方体の邦人女裝して韓靴を穿ち徘徊し居る樣の怪しき節あるより夫れと直ちに小野警部に密告したるに小野警部は這奴必定曲者ならんと繁田をして其儘彼の怪しき男の行方を追跡せしめたるに此の時怪しき男は既に山手町を去りて小學校附近を迂路つき居りたるに遂に同運動場に於て難なく逮捕するに至れるなりと尚詳細は次號に報すべし

●査公人を擲る　廿一日午後八時二十分頃東部警察署巡査黃在德と云ふもの竹園町玉轉業横川梅吉方に至り群る人を押し分けて玉轉を夢中に見物し居りたるに何日の間にかチョッキの衣囊に入れたる二十圓入りの財布銀指輪認印等を紛失したるにぞ遁したるにはあらぬと思ふ者から群集に其旨を告げて探し居りたるを一人の男此の場に來り黃の八釜しく探し居るを見て何事をなすかと亂暴なる言葉を使ひたるより黃も其所は巡査の事とてグッと癪に障りたりとて見ぬ其の男をシタタカに毆り付け其旨銅峴分署に自首し出でたり

●貸さねば腕で取る　去る二十日の午後九時頃長谷川町一丁目の大工職橋本國武方へ廣島縣生れにて同町二丁目に住する同じく大工職の館助一(三十)が來り突然金十圓を貸せといふより國武は自分は未だ貴公と交際もせず格別關係したることもなきが何の故を以て金を貸せといふかと詰問すると助一は八寸許りのナイフを取り出して理由も糸瓜もあるものか尋常に貸せばよし否といへば腕で借ると滿面に怒氣を含んで斷りつけん有樣なるより程よくあしらひ表口より逃げ去らんとするを助一は直ちに追かけ來り二尺八寸の棍棒を以て毆打したりと國武より警察署に告訴し助一はこれに應へて國武は同職の者なるが今同仲間の者が工事費二十圓の過拂を同人になしたるに同人がそれを知らぬ顔にて受取り居るは不都合ならすやと忠告に行きたるものにて更らに脅迫がましき行動をなせしことなしと辯解し居れり

●任警視叙奏任官四等　[illegible]

●實業同志組合役員會　仁川實業同志會[illegible]役員會を開き[illegible]行方法等に就き協議す[illegible]筈なり

●車に乘らぬ敵　本町六丁目の鐵菜受負業矢田豐吉(三十)は常に共同組の人力車に乘れるが此の頃の不景氣に少しにても儉約せんものと去る二十一日の午後九時頃妻の森川きよと共に歌舞伎座の芝居見物に行くに韓人の人力車に乘りたるに共同組の車夫岡砂九一は今日に限つて自分等の人力車に乘らぬを立腹し途中に於て豐吉を毆打し負傷せしめ豐吉は直ちに共愛病院に入院し九一は其の場に於て捕ねられ警察へ引致せられたり

●金を出さねば新聞で曝らす　龍山榮町の建築業山崎三太郎(三十)は去る二十日南大門通一丁目櫻屋に止宿し長谷川町二丁目池田伊勢松方に至り金三十圓を貸與せよと迫りこれに應ぜざれば貴樣が不正行爲を以て土地の賣買をなし居ることを新聞にて曝らすがよいかと脅迫し伊勢松も急所を刺されて然らば夕刻までに調達し置かんと約束したること其の筋の耳に入り金錢を受授せざる前に於て三太郎は逮捕せられ強て金錢の合力を求めたるものとして五日の拘留に處分せられたり

●川竹物語　陽炎の燃ゆる程人の心も浮き立つ長閑けき春の樂みも短き一場の夢と消へ都人幾萬の子女をして憧がれしめたる南門外の桃も今は若葉となりて子雀飛び交ひ南山松綠なるの邊山杜鵑思ひかけたかと囀き庭のポプラには暮れ行く春を惜みてや小雨蕭々として降る物の哀れを誘ふ夕此處南山町某旗亭宴會の席も漸く酣なりと見へ何の人も秋の紅葉の唐紅に顔を彩り濁み聲を張り上げ唄ふ此方には此樓の看板たる婀娜者が舞踊の最中にて座中の人々何れも此妓の姿に見惚れたるが只一人の美妓は人の眼を憚るが如に表二階の欄干に倚りながら深き思ひに沈みたるらしく幾度となく溜め息を吐きつゝアノ私方も聞へぬが姉さんもまた姉分を笠に衣て妾の好さんを横取りするとは餘りだ如何に川竹の流れを汲む浮き商賣とはいへ餘りに義理も何も知らぬ仕方妾しとて斯る勤めの身なれど元は夫れ相應の家に育つた身望みや好きで身を沈めたのではなく底には底のあつてこそ此勤め夫れにアノ仕打とア、如何して此の仇と長き息を吐きながら世には意氣もあれば張りもある此儘に引込めば意地なしと朋輩より笑はれんア、ドウしよう〱と口惜し淚をハンカーチーフにソッと又た元の座敷に足を運はしたのは豐子の顔に似た女であつた

●保安規則違犯者　佐賀市生れの岡野與作といへるは一定の職業なく流浪するより本月一日保安規則第一條によりて十日以內に職業に就くべく命令を受けながら尚ほ賭博に耽り良民を苦めなどするより昨日保安規則違犯として檢事へ送致せられたり

●本願寺說教　本夕は土曜日に付南山本願寺に於ては例の通り午後八時より說教あり

●歌舞伎座藝題　歌舞伎座に於ける片岡長太郎一座は毎夜の好人氣を占め居れるが本日の替り藝題は前『肥後の駒下駄』切『安達ケ原三段目』にして重なる役割は惣次、濱夕(吉右エ門)月岡刑部、宗任(竹三郎)おぬい、松江(瓢枝)おすみ、おさわ(紅三郎)久米藏(賞之助)中川縫之助、袖萩(市鶴)松田新藏、八幡太郎(市昇)八阪源次平、謙丈(關舛)駒平、貞任(長太郎)

●天氣豫報(自廿二日午後六時至廿三日午後六時)　南又は西の風雨晴れ

公人私人

尾西傘太郎(新聞記者)　不知火旅館へ
戸谷幸照(長野縣醫師)　九州旅館へ
島崎良觀(前野田吉發院住職)　沖野屋へ
小林智(憲兵中尉)　山本旅館へ
內藤三守(工兵大尉)　同上

廣告